

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : Gustavus Adolphus College

留学期間 : 平成 28 年 8 月 28 日 ~ 平成 30 年 6 月 3 日

専攻として力を入れていた政治学という学びを、机上の学びに限らず、課外活動として実施することができました。学内では、持続可能なキャンパスを目指すグループの Greens に参加しています。2016 年の秋にはノースダコタ州のアメリカ先住民族居留地の一つであるスタンディングロックを訪れました。そこでは、先住民族の神聖な水の源に影響をしかねない、石油のパイプラインの建設が企業と政府の合意で行われようとしていました。現地で抗議活動をする方々のキャンプを訪れ、話を聞くことにより、資本主義が及ぼす環境への影響を考えさせられました。また、1 月の課外授業ではワシントン D.C. を訪れ、第 45 代大統領就任式へ参加、ミネソタの州議会議員に会う他、大規模な Women's March を目撃しました。ホロコースト博物館、国立アフリカ系米国人歴史文化博物館を含む様々な資料館を訪れ、人権、公民権運動、女性の権利の歴史を深く学びました。さらに、春学期ではミシガン州で行われたモデル国連に参加し、Environmental Committee のパキスタン代表として、決議案 (Resolution) を作成するなど、国際機関さながらの経験をすることができました。このように、問題意識を持ち自ら飛び込み学ぶ姿勢を持つことで、政治が及ぼす影響を幅広い視野からみることができました。夏には、日本に一時帰国し、オランダに本部を置く国際環境保全団体である Greenpeace Japan オフィスでインターンシップを行い、日本が抱える環境問題に対し、活動を行いました。

これから留学する人へのアドバイスとしては、批判的思考法を持って学びに取り組んでほしいと思います。問題に対し、なぜ? という疑問を持ち、積極的に自分で問題意識を持つことが、留学先で授業を受ける際に最も大切なスキルになると思います。同時に、様々な問題を抱えた日本という国を、冷静に客観的にみることができます。さらに、その学びを活かした活動を行うことです。学びが体験となり、ストーリーを伝える時に力強いメッセージになるからです。